

第50回全国保育団体合同研究集会 集会宣言

2018年8月4日～6日、大阪で開催された第50回全国保育団体合同研究集会に、46都道府県から9339人の参加者が集いました。

今年合研50回目の記念集会であり、これまでの保育と保育運動を振り返り、その成果と課題を踏まえて新しい一步を踏み出すための歴史的集会となりました。合研の歴史は、子どもたちを守りたい、子どもたちが泣いたり笑ったりしながら豊かに成長できる保育がしたい、そしてこれを阻むものがあれば、どんな困難でも手を取りあって乗り越えていくという熱い思いと実行力に支えられてきました。

私たちはこの集会で、合研の取り組みが、保護者の仕事と生活と子育てを保障すること、保育者の専門性と高い質の保育を保障すること、平和で民主的な社会の中で子どもの育ちを保障すること、これらのすべてを求めるものであったことを改めて確認しました。そして、そのすべてが保障されてこそ、子どもたちに対する責任が全うできるという認識を新たにしました。

168本の提案がされた53の分科会や、23の講座やシンポジウムなどでは、月齢・状況に応じた子どもの発達、具体的な保育内容・実践、保育者の処遇改善、保育制度や条件の改善、保育所や保護者会の運営、子どもたちの育つ地域・社会等、さまざまな内容について学び、経験を交流しました。

開催地大阪では、子どもたちの幸せのためには大人たちが手をつなぎあうことが絶対に必要という願いのもとで、保護者・保育者・研究者・地域住民などとの共同を重視した取り組みが行われており、それぞれの立場からの実践報告が多数提案されました。

今年から、改定された保育所保育指針が施行され、無資格者の活用や面積基準の緩和で保育の最低基準をさらに引き下げようとするなど、保育の根幹を揺るがすような政策が次々と打ち出されています。これらの動きに対し、私たちは、私たちの子ども観、めざす子ども像、求める保育をはっきり示していく必要があります。

そしてこの間、地震・豪雨などの災害が続き、虐待や保育事故などが後を絶たないなかで、子どもの命と生活を何よりも優先して考える保育を追求し、施策の実現に力を尽くすことが必要になっています。日本の平和主義を守ってきた憲法9条を変えようとする動きに対しても、一人ひとりの子どもの命と生活を守り、その未来を保障するために、学習し、行動することが必要であることを改めて確認しました。

私たちは、本集会で、先達から引き継がれてきた、遠慮せず、諦めず、子どもの健やかな育ちに役立つことはすべて行うという「合研方式」を、この50回集会を新たな起点に、新たな感性と工夫をもって実践していくことを決意しました。今、私たちには、合研で学び考えたこと、感動したことを、それぞれの地域、保育施設、クラス、そして一人ひとりの子どもたちに少しでも多く、早く持ち帰りたいという思いがあふれています。

合研に集う多くの仲間がいるという心強さを胸に、それぞれの持ち場で、子どもたちの「最善の利益」を図る実践をしていきましょう。また、それらの実践を第51回愛知集會に持ち寄り、保育を豊かなものにしていきましょう。

2018年8月6日

第50回全国保育団体合同研究集会